

国際関係学科 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

外国語学部国際関係学科は、基盤教育による基盤力に加え、国際関係学に関する専門教育を通して、以下の能力を有すると認めた者に学士（国際関係学）の学位を授与します。

■ 豊かな「知識」

国際政治経済やアジア太平洋地域の政治外交に関する社会科学の基礎知識を修得し、それをもとに個々の地域が持つ特性を理解している。

■ 知識を活用できる「技能」

国際関係論と地域研究の学修に関して、社会科学の立場から、必要な情報を収集・調査・分析することができるとともに、英語をはじめ、東アジアで活躍するための中国語または朝鮮語の基礎語学力を身につけている。

■ 次代を切り開く「思考・判断・表現力」

国際情勢に関する学修を通して、様々な事象に対し総合的、論理的な思考・判断により、解決策を提案できる応用力を持つとともに、専門的見地から自分の考えや判断を表現することができる。

■ 組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」

国際的な観点から行う地域の特性に関する学修を通して、多様な文化や言語を背景に持つ他者と協働して活動できるコミュニケーション力を有している。

■ 社会で生きる「自律的行動力」

国際社会に関する学修を通して、国際関係と地域研究への関心を持ち続け、グローバル社会の一員として貢献できる姿勢を身につけている。

国際関係学科 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

外国語学部国際関係学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

教育課程の編成

(編成の方針)

- 1 国際関係学科では、1年次から4年次にかけて国際政治経済やアジア太平洋地域の政治外交等に関する基礎から応用に至る知識及び英語をはじめ中国語又は朝鮮語の基礎的・応用的語学力、必要な情報の収集・調査・分析のスキルを修得するとともに、国際関係と地域研究への関心を持ち続け、グローバル社会の一員として貢献する姿勢を身につけることを目指して、順次性・体系性のある教育課程を編成する。
- 2 教育課程には、国際情勢に関する様々な事象を総合的・論理的に考察し、多様な文化や言語を背景に持つ他者と協力して活動できるコミュニケーション力を育成しつつ、自身の考えや判断を表現できるよう、1年次の入門演習から4年次の卒業研究に至るまで演習科目を配置する。
- 3 以上の専門教育科目に加え、社会で生きていくための基盤力を育成する基盤教育科目をもって国際関係学科の教育課程を編成する。

(教育課程の構成)

※（ ）は卒業に必要な最低単位数で、卒業要件単位数 124 単位の内訳
国際関係学科は編成方針にもとづき、「専門教育科目」(84)と「基盤教育科目」(40)で構成する。

専門教育科目は、「外国語科目」「専門基礎科目」「専門科目」「関連科目」「演習科目」「実践科目」の6つの科目群から成り、各科目群の編成は次のとおりとする。

- 1) 「外国語科目」(14)は、入学から卒業までの期間に、「聴く・話す・読む・書く」の4つの技能を系統的に習得し、実践的な英語力を育成するため、1、2、3年次に配置する。
- 2) 「専門基礎科目」(12)は、国際関係学の基礎となり、中核となる知識と技能の力を育成するため、1年次と2年次に順次履修できるように授業科目を配置する。
- 3) 「専門科目」(38)は、1年次の導入科目の後、「地域研究領域」と「国際関係領域」の科目を置く。それらは国際関係と地域研究を学修するための専門性の高い知識と方法を学修する科目である。
- 4) 「関連科目」は、他の専門教育科目で学習した内容の幅を広げるため、1、2、3年次に配置する。
- 5) 「演習科目」(12)は、国際関係学の専門的技能と、思考・判断・表現力、そしてコミュニケーション能力の修得を目的として、1、2、3、4年次に配置する。
- 6) 「実践科目」は、学生の実践力育成、およびキャリア意識の醸成を目的とした科目である。

教育の内容・方法

- ・ 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行う。
- ・ 学生が主体的に学び、協働して課題解決に取り組むとともに、学習意欲・関心を高め、生涯にわたって学び続ける力を養うため、課題解決型学習（PBL）、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなど能動的学習（アクティブ・ラーニング）の手法を授業形態に応じて効果的に取り入れる。
- ・ 学生の実践力の育成とキャリア意識の醸成のため、国内外の団体・企業等でのインターンシップ（就業体験）への参加を積極的に奨励し評価する。
- ・ 予習・復習等、授業時間外の学修について、学修行動調査などによる調査・把握を行いながら、シラバスへの内容記載や授業での喚起等により、適切な学修時間の確保を促す。
- ・ 単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限を各学期 26 単位とする。

学修成果の評価

- ・ 授業科目の成績評価は、試験、受講態度、並びにレポートや課題、ディスカッション、プレゼンテーションへの取組状況や成果などによって厳格に判定する。成績が一定の水準に達したと認めた場合に、所定の単位を認定する。
- ・ 3 年次に進級するためには、2 年次終了までにおいて、所定の科目を含めた 48 単位、卒業の要件は、所定の科目を含めた 124 単位以上の修得を必要とする。
- ・ 各授業科目の成績を基礎とした総合的な学業成績として、累積 GPA を算出し、成績優秀者表彰や早期卒業、留学対象者の選定などに用い、学修意欲の向上を図る。
- ・ 学生への授業評価・学修行動調査等を実施し、個別科目での学生の理解度や各講義・授業への要望をはじめ、学修達成状況などを把握し、その結果を授業や教育課程の改善に役立てる。